

丸山湿原群保全の会会報

(第 220 号)

発行日：2025 年 (R7) 11 月 19 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)
いますみE-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

http://www.hitose-to.com/maruyamashitugengun_hozennoka
Yama-shitugengun
保全の会 HP・blog



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

いつの間にか冬みたい…まだ信じられないような気がしますが、スタッドレスタイヤの準備もそろそろ。雪の便りがあるのに「クマ騒動」は収まりを見せず、毎日クマの被害や駆除のニュースが流れています。何が起こっているのかは前号でも書いていますが「アーバンベア」「スマートベア?」なるものは冬眠をしないのでしょうか? 飲えがひどいと冬眠しないという説、飲えが冬眠を引き起こすという説、里地に食べ物がいつでもあるから冬眠しないという説もある。「穴知らず、穴持たず、穴無し」と言われるクマは昔からいたそうです。これは弱いオスのクマが強い個体に冬眠場所をとられて場所がなかったためとか。結局クマについては生態がよくわからないのが実情? 奥山にクマがいなくなっているとも考えられる? 総数もまともに把握できていないのに「駆除、駆除」でいいのか? とは言っても人が襲われている。(ちなみに兵庫県は総数をほぼ掴んでいるようです。)

四国のクマは 20 頭もしくは 26 頭とも。絶滅の危機。保護が叫ばれています。今、声高く「クマを守れ!」とは言えない状況か? また九州では「1941 年大分・宮崎県境の山中で、子グマの腐乱死体が確認された」のが最後のよう絶滅。森林破壊や獲りすぎが原因だとか。

この状況はいったい何なんだ! クマは森林生態系の頂点 (アンブレラ種)。草食性の強い動物なので、ブナやナラ類の種を糞としてばらまき健全な森林を作る。

「クマなんていなくなればいいんだ」という乱暴な声も聞こえてきそうな気がしますが。それでも人の身勝手が生み出した現実をどう捉えるか考えてしまいます。 (今住 11 月 16 日作成)

西谷小学校環境学習 ★おいしい活動 10月 14 (火) 16名 (スタッフ・教師含む)

丸山湿原 2 度目のフィールド。結構暑いけど「実りの秋」。山の恵みを楽しみましょう!

今回もジャンボタクシーで到着。駐車場でご挨拶。そこになんと、くっさい銀杏ではなく(まだあったかな?) ミツバアケビ (三葉木通) の実がネムノキ (合歓木) の高い所にあるではありませんか! その高さ約 4m。今年は果実の当たり年。車で走っていると、道の上にアケビがぶら下がっていました。しかし高い場所。「木登り?」「道具でからめとる?」道具は実がちぎれてパーになることが多い。「木登りは子どもの定番」は、昔の話。「登りたい人?」と聞くと「ハイ! ハイ!」と結構手が上がる。ここが難しい。学習 (学校行事?) で来ていて「木登りでアケビ採ろうとして落ちました」「骨折しました」はちとまずい。本当は登って採ってほしいのですが…「先生方、向こうを向いていて下さい」とは言ってみましたが、教頭先生の目が「不可」と。賢明な判断です。で、なぜか木の下に停



アケビ ゲット 甘いで～～ 種がほとんどやけど

まっていた軽トラックを足掛けりにしてスタッフ（若手ガイド）が登りゲット。

大きな実がいくつか採れました。意外にも食べたことのない子が多い。先生方も。教頭先生は食経験あり。ま～せやろな。本来あの芋虫のような実を端からベロンチョと食べ、種をブルブルブルーと（人の顔に向け？）吐き出すのですが、カット（輪切り）して「味見」。こわごわ口に入れると「甘い！柿みたいな味」と大好評。よかったです。ヤマノイモ（自然薯）のムカゴもムシヤムシャ。（生食）「ちょっと探したらどこにでもあるで～」「アケビは皮に肉を詰めて焼いてもおいしいそうや」「ムカゴはムカゴ飯」などと偉そうに言っておきました。その後カキノキ（柿の木、山柿？）にガキが…失礼！児童がかぶりつき「ゲエッ！しぶー」と。思わず吐き出していました。久しぶりに引っ掛けりうれしかった。渋柿は干し柿にできるよ。縄文時代？奈良時代から食べられていたごちそうです。



柿はおいしいね～ 「ゲエッ！しぶー」

暑いので水分補給 この後工房開店



暑いので水分補給 この後工房開店

湿原に向かいます。途中ナツハゼ（夏櫨）の実、コバノガマズミ（小葉莢蒾）の実も味わいました。

川にもはいりましたが、やはり水がとても少ない。小さなサワガニ（沢蟹）を数匹捕獲。種類の分からぬキノコを「食べられる？」の質問に「ちょっとやったら死にません」などと定番の解説をしながら湿原へ。陽が照りつけると暑い！



ヌマガヤ（沼茅）ストロー工房開店。注文にあたふた。湿原は特に見るものなし。で、「鉄塔～ズリコース」へ。しかし暑い。「帰りたい」の声も。そんなのは無視してガイドのおっさんは進んでいく。鉄塔を抜け藪を抜け…ズリへ。そして展望のいい所で休憩とズリ遊び。もうぐちゃぐちゃですわ。服も長靴も土まみれ。ジャンボタクシーに乗車拒否されるんちゃうやろか？（前回もか）田舎の子が昔遊んでいたのを再現しているだけなんですが。なぜか最近はこんなことできないんですね～。なんでやろ？と思うのが変なのか？ということで、本日の山遊びは終了！いや自然体験学習でした。次回は冬。冬作業を手伝っていただきます。よろしくお願ひいたします。



もう制御不能 子どもの遊びはこうやね！

オッサンは1人？ズリ（はげ山）へ

定期活動

★定期作業 10月26日（日）は待望の雨で中止！

セミナー

★11月1日（土）「丸山湿原セミナー×西谷の森自然史講座」 29名の参加

（兵庫県立「宝塚西谷の森公園」多目的室）



オオサンショウウオ解体新書 残部あり

2年ほど諸般の事情で実施しなかったセミナーです。今回も「宝塚西谷の森公園」とコラボ。「宝塚にオオサンショウウオはいるのか？」をテーマに、兵庫県自然保護協会の大沼さん（調査部長）と松田さん（調査員）に講演をお願いしました。以前「両生類セミナー」でお世話になった田口さん（現 島根県「瑞穂ハンザケ自然館」学芸員）も急遽参加。なんと大沼さんが師匠筋だとか。フィールドでの保全と調査に対して相当リスペクトされているようでした。

講師のお二人は宝塚市在住で「オオサンショウウオ」をはじめとする生き物の調査と保全のため日夜走り回っておられます。少し前の宝塚市「クビアカツヤカミキリ発生」にも誰よりも早く駆けつけられました。市の「環境エネルギー課」も担当部署として出動されたようです。バラ科（サクラやウメ）に甚大な被害を及ぼすのに「他の部署（公園？農業？）」が動かないのが不思議ですが…そうなっているようです。（ちょっとチクリと…）ヒアリなどの環境省対応と同じですね…どこも同じか？（チクリと）

セミナーです。いちばん知りたかったのは「宝塚にオオサンショウウオ（特別天然記念物）が本当に生息しているのか？」。宝塚市の「生物多様性戦略」や「宝塚市の環境」にはいつも「生息する」と書かれています。

私が宝塚市で生きたオオサンショウウオを見たのは小学校時代。西谷小学校の中庭。約 1m 樹のコンクリートプールに金網で厳重に囲われ、「恐ろしい生き物がいるので、手を出してはいけない」と先生方から伝えられていきました。それが特別天然記念物（1952 年指定）の生き物とは全く知らず。いじめたりもしていました。知らないというのはやはり恐ろしい。まさしく罪。西谷小学校卒のかなりお年を召した方から、私より若い方まで口をそろえて「おった、おった」と。教育委員会からは「分からぬ」との回答のみ。文化財保護はいったいどうなってるんでしょうか？

講師に今回の主旨を伝えると調べに（毎年か？）行ってくれたようで、まさしく生きたオオサンショウウオ（大山椒魚）を「波豆川」で撮影してくれました。しかも人家のすぐ近く。（大原野西部の皆さん探してみてください。ホタルとのコラボもあるかも？さわったらあかんで～）

セミナー前半は松田さん作成の資料（オオサンショウウオ解体新書）を基に、オオサンショウウオ全般の概論。（痛恨の記載ミスがありました。指の数。前肢 4 本→〇 後肢→4 本× 5 本〇）貴重な資料をお持ちの皆さんには訂正をお願いします。徹夜の作業

でチェックできなかったようです。しか～し、「両生類セミナー」で何度も学んでいるさんはとっくに知っているはず。記念撮影でも 4 本指と 5 本指でパシャリしています。会報でも紹介。

後半は大沼さんによるまさしくリアルな保全状況。宝塚市には

立会新田川、波豆川に継続確

認中の個体が生息。 他に、生

息可能性のある川は、野尻川

支流の猪渕川上流、銀山川上

流。川下川、僧川の 4 河川だそうです。ただ、宝塚市では保

全対策が全くされていないのが現状。調査も善意でのみ。

いるかも知れない川の河川改修はとてもリスクがあります。三田市内の羽束川災害復旧工事がされた時、「石袋」（袋型根固め工法）の下からオオサンショウウオの白骨が出てきたことも。文化財保護法により「触ること」「傷つけること」「移動」も禁止。調査と保護が義務？になるはずです。本来ならば罰則適応も？オオサンショウウオは両生類ですが、河川の砂地約 1m の深さに潜んでいるのを見つけたことも。（伏流水から酸素をとる？）生き物は予測不能。現場の状況を判断しながらの工事や保護の必要性があると説明されました。

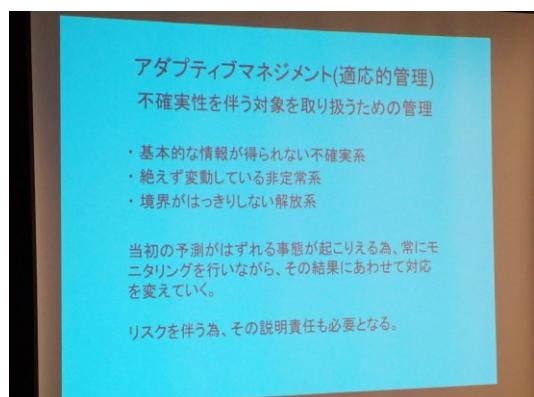
超省エネ型両生類。動物園などでは、1 週間に 10 cm ほどのイワシ 1 尾で大きくなっていくそ



大原野西部（下佐？）岩坪橋下で捕獲 健康！



波豆川 3 頭の個体写真（2025 年 9 月現在）



適応的管理 野生生物は予測不能やな

ども。文化財保護法により「触ること」「傷つけること」「移動」も禁止。調査と保護が義務？にな

るはずです。本来ならば罰則適応も？オオサンショウウオは両生類ですが、河川の砂地約 1m の深

さに潜んでいるのを見つけたことも。（伏流水から酸素をとる？）生き物は予測不能。現場の状況

を

です。3 千万年その姿を変えてない生き物。進化をやめたのではなく、進化する必要がないほどの「完成形」を獲得している生き物と言える、と松田さん。とすると絶滅の心配はない?はずなんですが…ここでまた人(ホモサピエンス)の問題が。たった 20 万年(最近 30 万年?)前に誕生した現人類が「完成形」では無かったために多くの生き物を絶滅に導いていく現実。最善の配慮をしてほしいものです。



ここで今回のセミナーの結論!「宝塚市(西谷)にオオサンショウウオ(特別天然記念物)は生息している」保護と調査を実施することが責務(急務)であると分かりました。身近な特別天然記念物を保護していくうではありませんか。小さいながらも声を上げよう!教育委員会(社会教育課)さん、よろしくお願ひいたします。何度も言いますが特別天然記念物のオオサンショウウオです。

地元住民からも熱心な質問が

定期活動 ★基礎調査 11月8日(土) 6名で調査 今回は水がある!

目的	市内	市外
丸山	27	21
ハイキング・登山	28	63
散歩	37	1

来場者数計 177 人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	13.1°C		
第3湿原	10:34	15.4°C [12.9°C]	33.1 μS/cm	6.2
視点場	10:48	16.5°C	29.9 μS/cm	5.6
第1湿原	11:00	15.8°C [10.8°C]	28.2 μS/cm	6.3
第2湿原	11:25	16.7°C [10.2°C]	32.7 μS/cm	6.0



第3湿原計測場からの秋?景色

先月末の雨のおかげで水位が少し回復してきました。気温も落ち着いてきたようで、秋らしい雰囲気です。紅葉も進み始め、タカノツメ(鷹の爪)などの落葉は発酵して香ばしい匂いも。ウメバチソウ(梅鉢草)は終盤に入りかけ。花期は長いので月末ぐらいまでは見られると思います。毎年ですが第3湿原のウメバチソウは圧巻。まさしくお花畠のようです。(地味さはぬぐえませんが…)
センブリ(千振)、ホソバリンドウ(細葉竜胆)も見られます。ウメモドキ(梅擬)もたくさん実を付け華やかです。何度も書いているようですが、今年は実の当たり年。ドングリも多い。そしてオオウラジロノキ(大裏白の木)の実もたくさん落ちています。見上げるとまだ枝についているのも多数。クリ(栗・柴栗?)も豊作のようで、折れた枯れ松(高さ約 3m)の上にクリのイガが山積みにされていました。誰の仕業かは不明。リス?人が玉入れのように遊んだ?どう考へても自然(風など)ではない量でした。クマでないことは確か。安心。



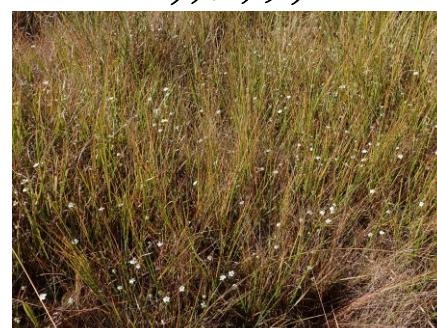
ウメバチソウ



オオウラジロノキ 実(小リンゴ)



謎!玉入れ状態の枯れ松折れ株



見る人が見るとお花畠 やっぱり地味か?

この日ではありませんが、駐車場付近の枯れアカマツ(赤松)が倒れました。毎年?可愛い花をつけ、たわわに実を付けるエゴノキ(野茉莉)が巻き込まれ裂けて無残な姿になりました。次回処理をする?

次回活動日 11月 23日(日) 12月 13日(土) 28日(日) 来年もあるよ